

饅など入てもとの所にかへせば持來し人とりて歸るをかねてより水をくみ置て是にかけ
わらひの、しる事あり郷國にてはとびくといふ四國にはかいづりといふよし聞ぬ

西國にて此日薄暮より明曉に至までうぐるもちを打とて藁をつかねて地を打事あり土を
かためんとにや東國には此事なしとぞげにかゝるよしなし事俗にしたがひて何かせんせ
ずして禮義に害なくばせざるにしかじ

〔増補江戸年中行事 正月〕十四日 年越祝ふ家々けづりかけを下る

〔東都歳事記 正月〕十四日 良賤年越を祝す十四日年こ

〔年中行事故實考 正月〕十四日 禁中にて年越の御獻あり俗家にても六日のごとくことぶきを
なす

〔御湯殿の上の日記〕慶長三年正月十四日としこしの御盃夕かた一こんまいる女中御ばんじゆ
くじらのすひ物ひしくとまいる